



生産と消費を持続可能な方法
で行っていきます

SDGs(持続可能な開発目標)の12番目の目標が「つくる責任つかう責任」です。

まだ食べられるのに捨てられる食品のことを「食品ロス」といいます。日本人一人が1日に出している「食品ロス」は、お茶碗1杯分、年間で約643万トンと推定され、毎日、大型の10トントラック1,700台分の食品を廃棄しているといわれます。

昨年、コンビニ弁当や恵方巻きなど、店頭に並ぶ食品が売れ残り、大量に廃棄されていることが話題になりました。作る側も買う側も早急な意識改革が求められています。

日本は食糧自給率が38%で、食料の多くを海外からの輸入に依存しています。たとえば輸入牛肉100グラムに対しては、約2トンの※バーチャル・ウォーターを輸入していることになります。

※食料を輸入している国において、もしその輸入食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したもの

★参考書:

「食べものが世界を変えている コンビニ弁当16万キロの旅」 太郎次郎社

「SDGs入門」 JICA 国際協力機構



提供:消費者教育支援センター